令和５年度事業報告書

令和５年４月１日から令和６年３月３１日まで

特定非営利活動法人 Oneself

Ⅰ．事業総括

今年度は新型コロナウイルス感染症が一旦落ち着いた新規入国再開以降に入学した留学生達が卒業する年となった。留学後は母国に帰国してから就職したいというケースをはじめ、日本での就職を目指す等、多くの可能性に溢れた時期に新型コロナウイルス感染症に翻弄された学生達にとって非常に厳しい１年となった。

描いていた将来設計と少しズレが出てきたところもあるかもしれないが、諦めずに前進してほしいと思うばかりである。

一方でアフターコロナとなった今でも困窮する留学生は減ることがなく、今年度もそういった留学生の支援に努めた。客足が戻りつつあっても働いてくれるスタッフが戻らない飲食店等では、働きたいという留学生がいても日本人スタッフと同等の日本語力や臨機応変に対応できる力がなければ、解雇されたりシフトが減少したりする留学生が多くいる。

そういった中で今年度も「学ぶを諦めない」ための「やどかり給付型奨学金プログラム」を実施した。今年度は５名の奨学生を輩出した。IT 関係、経済等、自身の学びたい分野がはっきりしており、二次選考の「留学生版トライやるウィーク」では積極的に活動する奨学生が多かった。単に言われたことだけをこなすのではなく、「なぜこのような活動が必要なのか。」「来館者・来庁者に対するきめの細かい対応とはどういうことなのか。」と時には担当者に質問する等、自ら考えて行動できるメンバーが多かった。母国にはないサービスや考え方を知り、母国へ戻った時には自身が得た知識や経験を生かしたいというメンバーの声に奨学金プログラムとしてだけではなく、将来設計が可能なプログラムである必要性を実感した。

また日本で働きたいという留学生を対象に今年度も「やどかりのがっこう２」を実施した。今年度は特定技能外食・宿泊コースを設置し、座学と実習を経てチャレンジカフェに参加するという流れでインターンシップやアルバイト採用を目指した。日本語でのコミュニケーション能力に加え、状況に応じて臨機応変に対応することが求められる飲食店やホテルで即戦力として採用してもらえるよう、スタッフ・講師ともに連携し厳しくも、丁寧でわかりやすい指導を心がけた。チャレンジカフェでは兵庫区内の市場にあるシェアキッチンスペースを活用し、地域の方々に活動を知っていただき、留学生と気軽に接する機会ができる場所を作った。週に１回という限られた開催ではあったが、常連になってくださる地域の方々や積極的に留学生に声をかけてくださり、コミュニケーションをとってくださる方もいらっしゃった。

兵庫区は特に留学生の多いエリアのため、日頃からこういった機会があることは相互理解を深めるきっかけになると思う。

今後も、神戸を選び入国した留学生達が安心安全な生活を送れるようにサポートを続けるとともに、地域住民の１人として地域に繋がり、地域住民と共に生きるまちづくりを進めていきたいと思っている。

Ⅱ．組織運営

Ⅱ－１会員数

・正会員…17 名（個人）

・賛助会員２名

Ⅱ－２理事会及び定例会の開催

・総会　　５月に開催

・理事会　　団体の運営方法及び事業に関する会議　状況に応じて開催

・定例会　　理事及び正会員で事業に関する進捗報告及び意見交換を状況に応じて開催

Ⅲ．特定非営利活動に関わる事業報告

◆Oneself 明舞日本語教室

実施日：隔週水曜日 10：00～11：30

場所：みなくーる明舞（明舞キリン堂薬局２階）

学習者：８名

担当者：日本語教師：１名・ボランティア２名

【実施内容】

当教室の活動は令和５年で 10 年を迎えた。学習者の高齢化は進んでいるが、学習意欲は高く出席率も 80%以上を維持している。

今年も地域の文化祭へ出展することを目標に日本語学習を行った。

授業構成は漢字 30 分、ラジオ体操、文法 30 分、その他の活動 30 分の計 90 分を基本とし、主要テキストには『できる日本語わたしの文法ノート』を使用している。「漢字」の授業は日本語ボランティアが担当している。今年から新出漢字導入の際に『十字補助線』や漢字パズルを取り入れている。これは、日本の漢字と簡体字の類似性に長年悩まされてきた学習者に向け、正しい漢字を書いてもらうための試みである。漢字の構造を正しく認識し、漢字パズルで楽しみながら覚えてもらうことが狙いである。今後は、パズルを２分割から４分割へと難易度を上げて継続させていきたい。「文法」では、作文に必要な文型や言葉をテキストから選んで復習した。また、学習者の「学び直し」がしたいという声に応え、テキストの第１課から文型や語彙の復習を始めた。「その他の活動」では、「カタカナかるた取り」や会話練習、文化祭に出展する作文の仕上げや毛筆書写の練習などを行た。いずれの活動も熱心に取り組む姿勢が見られ、この間に生きた会話が交わせたように思う。文化祭への出展は、学習者にとって日本語学習の励みにもなるので、引き続きボランティア共々支援を続けていきたい。

【異文化交流事業】

◆はっぴぃひろば

実施日時：2023 年 5 月 27 日（土曜日）

実施場所：湊川公園

参加者：参加者 26 名・スタッフ 4 名

【実施内容】

兵庫区制 90 周年事業として参加した。

兵庫区内には日本語学校が４校あり、特にベトナム人やネパール人外国人留学生が急増している。外国人留学生と地域との交流の場を設け区内に住む留学生の母国に関心を持ってもらう。

ファッションショーにはバングラディシュ・ネパール・ミャンマー・ベトナム等の留学生が母国の民族衣装を着て登壇した。また着物を民族衣装にリメイクし、リメイク衣装は地域住民の方々に着ていただいた。中学生から高齢者と幅広い世代に着ていただき、留学生達と共に登壇した。留学生達にとって日本の着物を見る機会は少なく、また自分で気軽に着ることができない着物をそれぞれの国の衣装にリメイクすることで、今後手軽に着てもらえる場を作れたらと思う。

◆水木通婦人会交流会

実施日時：2023 年 7 月 8 日（土曜日）19：00～21：30

実施場所：水木通地域福祉センター

参加者：留学生 6 名・スタッフ 1 名

【実施内容】

2019 年夏に水木通婦人会の方に企画していただき参加したが、その後新型コロナウイルス感染症拡大に伴い中止となっていたので 4 年ぶりの開催となった。今回はミャンマー・フィリピン・ウズベキスタン・ネパールの留学生とともに参加した。母国のゲームを通して子どもたちと交流したり、母国文化や言葉・挨拶を紹介したりして交流を深めた。

一方で、ムスリム圏・ヒンドゥー教の学生もいたため、同じ食事を提供するのが難しくメニュー変更をする等の対応をしていただいた。地域の方々にとっても文化や宗教の違いを理解していただき、共に楽しく交流するための形づくりや意味等も感じていただけたらと思う。

◆こどもフェスタ夜市＆兵庫図書館おばけやしき

実施日時：2023 年 8 月 20 日（日曜日）19：00～21：30

実施場所：神戸市立兵庫図書館

参加者：留学生 6 名・インターン生 1 名

【実施内容】

お化け屋敷の会場準備と、留学生と一緒にお化け役として参加した。まず、テーマに沿った衣装・化粧をしてお化けがどんな動きをすれば怖いか等、お互いに確認しながら行った。日本人スタッフとも楽しみながら活動ができ、とても充実した時間を過ごすことができた。日本語レベルを問わないイベントだったので、中には来日１ヶ月未満の学生もいたが、日本に来てすぐ日本人の子どもたちと交流を持つことができて楽しかったという声もあった。

◆子どもフェスタ in 和田宮さん 2023

実施日時：2023 年 11 月 3 日（木・祝）11：00～15：00

実施場所：和田神社

参加者：3 名・スタッフ 1 名

【実施内容】

国際交流シェアハウスやどかりに住んでいるミャンマー・中国出身の留学生が参加。

既存ブースのお手伝いをすることになり「スマートボール」のブースを担当した。一緒に参加してくれた日本人中学生が留学生に接客の日本語をレクチャーしてからスタートした。子どもたちが何点入れられたかによって景品が変わることもあり、留学生達は子どもたちが報告してくれる点数を聞き取り「この中から好きなおもちゃを 2 つあげます。」等、やりとりを行った。すぐにおもちゃを決める子どももいれば、悩んでなかなか決められない子どももいて「これが面白いかな。」「この色が好き？」等、子どもたちの目線でコミュニケーションを取ろうと頑張っていた。最初はぎこちない表情だったメンバーも次第に子どもたちやお店当番を一緒にしていた中学生とも笑顔でコミュニケーションが取れるようになった。

◆新春多文化学び初め

実施日時：2024 年 1 月 5 日（金）14：00～16：00

実施場所：長田区文化センター和室

参加者：5 名・スタッフ 4 名

【実施内容】

やどかり給付型奨学金プログラムの奨学生を中心に母国文化紹介を行った。留学生達は写真や実物を見せながら国の習慣や結婚観、職業観等についても発表した。各自しっかりと準備をしてきていたので、1 人あたり 20～30 分発表できた。時には参加された方からの質問にも答えながら、写真を追加し臨機応変に対応していた。

参加された方からは「食べ物や有名な観光地等、だいたいどこでも聞くような内容かと思っていたら、宗教や思想等が国にどう影響しているか、隣国との関係性などかなり中身の濃い発表で大変興味深かった。」と声を頂いた。

◆ワールド・フェスタあかし

実施日時：2024 年 2 月 23 日（金・祝）11：00～16：00

実施場所：あかし市民広場

参加者：3 名・スタッフ 5 名

【実施内容】

特定技能「外食」の勉強をしてきた留学生達とともに「やどかりチャレンジカフェ」を出店した。これまで明石市で活動することはほとんどなかったので、NPO としての活動もあわせて紹介した。

留学生にとって初めてのテイクアウト型のイベントということもあり、これまでの喫茶店営業とは違いお客様が目の前で提供を待っているため緊張感をもって対応していた。喫茶店よりも緊張したという声もあったがお客様とのコミュニケーションもしっかりできていたと思う。

【定住外国人雇用自立支援事業】

◆国際交流シェアハウスやどかり

事業開始日：2015 年 7 月 1 日

事業所所在地：神戸市兵庫区中道通 2-2-11

今年度も新たに入国した留学生や技能実習生を中心に避難訓練や防災訓練、ごみ分別の方法、クリーンステーションの場所やクリーンステーションの看板の見方を説明した。
以下、技能実習生入国後講習を担当した講師からの感想。

入国して間もない技能実習生の瞳は眩しいくらいにキラキラと輝いていた。きっと不安と期待で胸膨らませて日本へやって来たのだろう。慣れない異国での生活に多少の疲れは見え隠れするものの、予習・復習をして授業に臨む勉強熱心な実習生がいたことには驚かされた。漢字・語彙・聴解・読解の授業を 2 日間担当したが、読解の後作業、インタビュー形式のロールプレイは興味深いものだった。
「日本の生活はどうですか」というテーマで質問を 3 つ考えて友人にインタビューするというものだ。交通・料理・便利・高い・おいしいなどの言葉を使ったお決まりの簡単なものから、具体的な理由や状況を述べ、更にインタビュアーが相槌を打ったり、短いコメントを挟んだりと工夫を凝らしたものまであり、努力の跡が見えた。既に配属先で仕事に励んでいる技能実習生には、Oneself で学んだことを忘れずに日本での生活に活用してほしいと思う。

【新型コロナウイルス感染症拡大による留学生・技能実習生支援事業】

◆やどかりフードドライブ（食料品寄付を募る）・やどかりフードマルシェ（食料品提供）
　地域活動（団体連携）

2023 年 4 月～2024 年 3 月

助成先：ひょうご支え合い基金

年間協力先：コープこうべ・兵庫区社会福祉協議会

寄付：個人、企業

今年度で４年目となったが、卒業入学シーズンで一旦来館者が減るものの、５月、６月になるとまた先輩から聞いたと食料品提供を求める学生が増える。来館する学生の国籍はミャンマーや中国出身者がほとんどである。特にミャンマー出身の学生の来館が非常に多く、ヒアリングを通して食料品提供以外のことでも悩みやアルバイトの状況等さまざまなことを相談してくれた。

友人も困っているという話をする学生は多く、原則第二土曜日の開催だが事前に連絡をくれれば平日でも夜間でも対応するようにしている。下期は特に体調を崩し手術が必要になった留学生へのフォロー等もあり、スタッフで交代しながら都度必要なサポートを行った。

また今年度も助成金から地域活動へ参加する留学生への有償ボランティア代を捻出しているため、地域のさまざまな活動に参加してもらった。地域の農園で野菜を栽培し、子ども食堂やシングルマザー等の単身世帯へ届けるという活動にも参加。野菜の収穫や種まき、花壇整備などに参加をさせてもらった。

何気なく見ている地域の公園も、誰かが掃除をしたり手入れをしたりして環境が守られていることを地域の方と一緒に活動に参加する中で理解していた。「子ども食堂」という概念が留学生には理解できないケースが多く、日本にそのような場があることをとても驚いている。地域活動を通して日本が抱える課題や実情を知ってほしいと思う。

◆やどかり給付型奨学金プログラム

〈事業趣旨〉

留学生は週に 28 時間までアルバイトが可能な「資格外活動許可」を持っているが、日本語学校の学費支払いと進学先の入学金支払いが重なる「2 年生の秋」は多くの留学生が生活費が足りず厳しい状況におかれる。中には資格外活動許可の範囲を超えてアルバイトをし、成績悪化や在留資格の取り消し等「学ぶ」ために来日したのにも関わらず「学べない」環境に陥ってしまう。この「2 年生の秋」を支えるために「給付型奨学金プログラム」を設立した。

また新型コロナウイルス感染症によりアルバイトが減少している留学生も多い。進学を希望する留学生からは「試験に合格しても学費が払えるかわからない。」「入学金の納付期限があるのにアルバイトが減らされて払えるかわからない。」という切実な声が多く聞かれた。そこでこれらの課題を解決するためにコロナで困窮する留学生を対象に給付型の奨学金を支給しコロナ禍でも「学ぶ機会」を失わない支援が必要であると考えた。

〈2023 年度給付型奨学金スケジュール〉

募集期間 5.8～6.9

一次選考：書類選考（小論文及び日本語学校への出席率）

二次選考：地域活動（留学生版トライやるウィーク）期間：8.7～8.31 のうち 2～3 回

三次選考：最終面接 9.18（月・祝）13：30～

「留学生版トライやるウィーク」振り返り：10 月 4 日（水）10：30～

「やどかり給付型奨学金プログラム」全体報告会：10.21（日）14：00～

〈一次選考〉

日本語学校出席率証明書の提出・小論文試験

〈二次選考受入先〉

兵庫区役所

神戸市立兵庫図書館

株式会社ファミリー新開地

一般社団法人コロコロおむすび

〈三次選考〉

個人面接

〈奨学生２期生からのメッセージ〉

みなさんこんにちは。わたしはベトナムから来ました。

私も去年みなさんと同じように奨学金プログラムを受けました。奨学金プログラムのおかげで勉強するための学費が少し楽になりました。

今日は私が進学した学校の紹介と私の夢を話したいと思います。日本の魅力を紹介したいので、卒業したら旅行会社に就職したいです。旅行会社は大変な時期ですが、先生とよく相談して考えました。先生にも感謝しています。目標が明確になったら、次のステップはそれに全力を尽くすことです。

2023 年 4 月に旅行のことを勉強する専門学校に入学しました。入学した時に感じたのは先生方の熱心さと思いやりでした。また日本語の授業のおかげで会話力も伸びました。

将来は自分で決めるのです。私が日本に留学した理由は幼い頃から日本の文化や風景が好きだったからです。そして今の学校では生徒たちのことを心から考えてくれるフレンドリーで親切な先生たちに会いました。
最後に環境に恐れず夢も持ち自分の能力を信じてください。夢を実現するためにみなさん頑張ってください。この奨学金プログラムに応募したらさまざまな仕事を体験する機会もあります。将来の進路選択に役に立ちます。一緒に頑張りましょう。

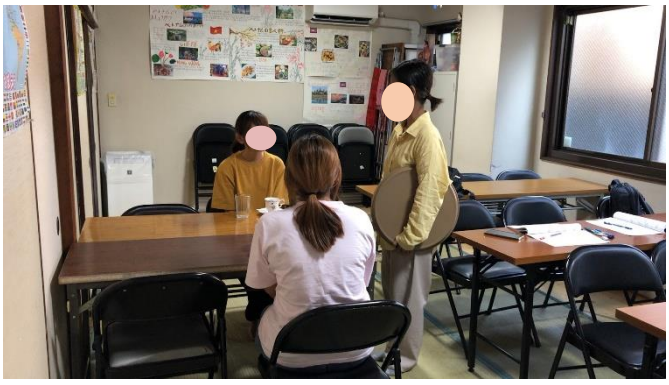
〈同プログラム報告会に参加された方からの感想〉
１０月２１日婦人会館で“令和５年度やどかり給付型奨学金プログラム”の活動報告会が行われました。
今年度、この奨学金プログラムに合格したのは５人です。
それぞれ書類選考・小論文課題・地域活動（留学生版トライヤルウィーク）・最終面接を経て合格されました。
報告会では、兵庫区役所・兵庫図書館・コロコロおむすび（子ども食堂）・ファミリー新開地（Ａ型作業所）での地域活動内容を自分たちで作った大きな紙に書いて、楽しかったこと、苦労したこと、工夫したこと、文化の違いを感じたこと、一緒に作業した方の暖かい心づかいなどを具体的に報告してくれました。
また、この奨学金をいただいたことへの感謝の言葉、今後の抱負を力強く伝えてくれました。
最近の社会情勢は混沌としていますが、このような小さな活動が地域の多文化共生へ少しでも繋がることを期待しています。

◆「やどかりのがっこう」
〈助成先〉一般財団法人日本民間公益活動連携機構（JANPIA）
〈実施期間〉2023 年 2 月 1 日～2024 年 1 月 31 日
〈背景・事業概要〉
食料品提供を通してヒアリングでわかったことはアルバイトの収入が 80000 円前後で、アルバイト代では生活ができないと回答している留学生が 63%に上る。来年度の学費納入の期限も迫ってきているが、コロナ感染者が増加していることもあり、シフトが少ないまま、あるいは今後減る可能性が高い状況になっている。
そういった中で企業は解雇しても希望者が次々と現れることから留学生の解雇が続いている。
このことから日本での就職を諦めないために特定技能ビザへ移行するための学科・実技指導を実施した。今回は訪日外国人が増加しているものの人材不足に陥っている特定技能の「外食」のコースを重点的に指導した。実際に学科で学んだ知識や技術を身に着けるため、チャレンジカフェを開催。チャレンジカフェでは就職を見据えた練習のため日本食の調理や配膳等について学んだ。

【やどかりのがっこう２　特定技能外食クラス授業】
座学

実習

接客用語・接客の姿勢等の練習



場面設定を行いより実践的な日本語会話練習

食事注文後のドリンクの配置指導

お客様が帰られた後の片づけ指導（テーブル消毒等）

以下、同事業を担当したスタッフの感想―

今年度も JANPIA 助成を受け「やどかりのがっこう２」を開講いたしました。コロナが５類に移行したことで昨年度実施できなかった特定技能外食への在留資格移行やアルバイトに就くための就労体験の場として「やどかりチャレンジカフェ」を実施いたしました。同カフェでは助成元である JANPIA をはじめ日本語教師、調理師、衛生管理指導をしてくださる方、チャレンジカフェをサポーターしてくださるスタッフの皆様に大変お世話になりました。

留学生の就業体験の一環として開催された日本語での接客を体験するカフェの活動支援スタッフとして参加しました。日本語での接客の基本を座学で学んだ後、現場での就業体験を開始したミャンマーからの留学生の方たちの成長ぶりには驚かされました。カフェの接客で習得しなければならないことは、言葉遣い、ふるまい、カウンター内の導線を意識した動きにまで至り、例えるならば、現場実習初日は、教習所で初めて実際に車を運転した時のような経験ではなかったかと思います。一度に複数のことを日本語で対応し、想定外のお客さんからの質問や、普段学校では学ばない方言（関西弁）に戸惑いながらも、受け答えしようとする留学生の姿、経験の積み重ねにより、常連さんのいるカフェにまで成長していけたと思います。今回の携わった呼び込みやチラシ配りは、私にとっても初めての経験で、相手の目を見て話しかける大切さ、それに応えてくださる人の有難さを実感する機会となりました。